

平成30年度に係る業務の実績に関する評価結果
国立大学法人北見工業大学

1 全体評価

北見工業大学は「向学心を喚起し、創造性を育み、将来の夢を拓く教育」、「個性に輝き、知の世紀をリードし、地域特色のある研究」、「地域のニーズに応え、地域をリードし、地域の発展に貢献」、「国際的視野を踏まえた教育研究、学生・教職員の国際化を推進」を基本目標としている。第3期中期目標期間においては、学士課程では基礎教育を重視し、学科間の垣根を取り払い、より一層の個性化、高度化、グローバル化を推進するとともに、大学院課程では寒冷地域環境工学、エネルギー工学、工農、医工連携等実践的な教育研究を実施し、専門技術者、高度専門技術者を育成し社会的要請に応え社会で活躍できる人材を輩出すること等を目標としている。

この目標の達成に向け、学長のリーダーシップの下、小・中学校への留学生の派遣や一般市民との交流イベント等、留学生による国際交流活動を積極的に行うなど、「法人の基本的な目標」に沿って計画的に取り組んでいることが認められる。

（「戦略性が高く意欲的な目標・計画」の取組状況について）

第3期中期目標期間における「戦略性が高く意欲的な目標・計画」について、平成30年度は主に以下の取組を実施し、法人の機能強化に向けて積極的に取り組んでいる。

- 近年の大型災害における社会的減災要請を受け、重点研究分野の研究組織である「複合型豪雨災害研究ユニット」が屋外大型開水路施設を用いた洪水時及び融雪期の河川増水による土木構造物の被災状況再現実験を開始しているほか、メタン直接改質技術による活力ある低炭素地域社会の広域構築に係る実証試験場として競馬場跡地の活用範囲を学生教育の場として広げている。（ユニット「地域と連携した雇用創出及び学生の地元定着」に関する取組）
- 令和3年度の大学院博士前期課程改組に向け、平成29年度に設置した「大学院博士前期課程改組に関するワーキンググループ」の議論を踏まえ、新たに再編したワーキンググループにおいて、引き続き検討を行い、PBL（Problem Based Learning）型修士論文や社会産業構造変化に対応した基盤スキル・リテラシー教育を実現するための教育システム等を改組案としてまとめている。（ユニット「地域貢献と地球環境に重点を置いた教育研究組織の再編」に関する取組）

2 項目別評価

<評価結果の概況>

	特 筆	一定の 注目事項	順 調	おおむね 順調	遅れ	重大な 改善事項
(1) 業務運営の改善及び効率化			○			
(2) 財務内容の改善			○			
(3) 自己点検・評価及び情報提供			○			
(4) その他業務運営			○			

I. 業務運営・財務内容等の状況

(1) 業務運営の改善及び効率化に関する目標

①組織運営の改善 ②教育研究組織の見直し ③事務等の効率化・合理化

【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載9事項全てが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められること等を総合的に勘案したことによる。

(2) 財務内容の改善に関する目標

①外部研究資金、寄附金その他の自己収入の増加 ②経費の抑制 ③資産の運用管理の改善

【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載5事項全てが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められること等を総合的に勘案したことによる。

(3) 自己点検・評価及び当該状況に係る情報の提供に関する目標

①評価の充実 ②情報公開や情報発信等の推進

【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載4事項全てが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められるとともに、下記の状況等を総合的に勘案したことによる。

平成30年度の実績のうち、下記の事項について注目される。

○ 教員評価制度の見直しに関する取組

教員の自律的な教育・研究活動を奨励し、モチベーションを向上させるため、評価項目における「教育」、「研究」及び「その他業務活動」のエフォート率について、固定値から一定の範囲内で教員が設定できることとするとともに、教授、准教授、講師及び助教といった各職層に求められる役割に応じた評価となるよう、職層別の評価に改正している。

(4) その他業務運営に関する重要目標

①施設設備の整備・活用等 ②安全管理 ③法令遵守

【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載20事項全てが「年度計画を十分に実施している」と認められるとともに、下記の状況等を総合的に勘案したことによる。

平成30年度の実績のうち、下記の事項について注目される。

○ 情報セキュリティ対策に関する取組

学外公開サーバを対象として、オンプレミスとクラウドを融合した安価な形態での第三者監査による脆弱性診断を行っている。

Ⅱ. 教育研究等の質の向上の状況

平成30年度の実績のうち、下記の事項について**注目**される。

○ 国際交流に関する取組

北見市及び周辺の小学校、中学校に留学生を派遣し、外国の文化や外国語について学習及び体験を深めるための活動を8回、一般市民との交流イベント「インターナショナルCアワー」を7回開催する等、留学生による国際交流活動を積極的に行った結果、目標値である128人を大幅に上回る延べ180人の留学生が参加している。